

## 「自然体験活動指導者養成研修会」

### 1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
30	32	26	26 (福井: 12・滋賀: 3・兵庫: 2・京都: 9)

### 2. 事業内容 (概要)

#### ◆ねらい

- ・自然に親しむ体験活動等の教育効果を高めるとともに、小学校における長期自然体験活動を支援するため、全体指導者を養成する。
- ・教育課程を始め学校教育の理解を深め、学校での自然体験活動活用の方策を探る。
- ・体験学習の効果についての理解を深め、支援の視点を探る。

#### ◆期日・期間

2011年 9月22日(木)～ 2011年 9月25日(日) 3泊 4日

#### ◆後援・協力団体

福井・岐阜・愛知・滋賀・京都各府県教育委員会

#### ◆参加者分析

- ・例年多数を占めていた野外教育関係者が少なく、2名の参加にとどまった。
- ・当自然の家で活躍している佛光大学からは、昨年度日程の都合が合わず数名の参加であったが、今年は11名の参加があった。
- ・今年は当自然の家職員が積極的に参加してくれ、8名の参加となった。

#### ◆企画のポイント

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
9月22日(木)			受付	開講式	講義A 「学校教育における体験活動の意義」	昼食・休憩	講義A 「学校教育における体験活動の意義」			講義B 「教育課程と体験活動の関連性」	夕食・休憩	実習F 「救命救急法」			入浴 情報交歓	就寝
9月23日(金)	起床 洗面 など	朝食		実習D 「自然体験活動の技術」		昼食・休憩	実習D 「自然体験活動の技術」			講義F 「安全管理」	夕食・休憩		情報交歓会		入浴	就寝
9月24日(土)	起床 洗面 など	朝食		講義E・演習E 「体験活動の指導法」		昼食・休憩	演習E 「体験活動の指導法」			講義C 「プログラムの企画立案」	夕食・休憩	演習C 「プログラムの企画立案」			入浴 情報交歓	就寝

9 月 25 日 (日)	起床 洗面 など	朝 食	演習C 「プログラ ムの企画立 案」	閉 講 式	
--------------------------	----------------	--------	-----------------------------	-------------	--

講師

「学校における体験活動の意義」「教育課程と体験活動の関連性」

(株)プロジェクトアドベンチャージャパン代表 林 寿夫氏

「救命救急講習」

若狭消防組合消防本部 救急救命士

「自然体験活動の技術」「安全管理」 グランストリーム代表 大瀬 志郎氏

「体験活動の指導法」「プログラムの企画立案」 シーズジャパン 関 智子氏

- ・ 講座ごとに履修というシステムのため、一昨年までは講座ごとが独立している形であった昨年度からは4日間を通して「体験の向こう側にある学び」に焦点を当てることとし、講師同士の打合せも綿密に行った。

◆運営のポイント

- ・ 各講師は、講義・演習内容自体を参加者の体験から学んでもらおうとされたため、座学と動きを伴う研修とを自在に扱える場の設定を心がけた。
- ・ 講師同士がねらいを共有し、打ち合わせて実施していたことに加え、スタッフもつなぎを意識して進行に当たった。

◆安全管理のポイント

- ・ 猛暑の後急激に冷涼になったため、海の活動での装着品や活動場所等において、参加者の健康状態を十分考慮するように心がけた。

3. アンケート結果

(1) アンケート

参加者	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	87%	13%	0%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	96%	4%	0%	0%
この事業の運営はどうでしたか	96%	4%	0%	0%

4満足 3やや満足 2やや不満 1不満

(2) 参加者の声

- ・ いろいろなクライアントに対する対策を考える機会があつて、勉強になった。
- ・ 遊んで学んでまた考えたり、勉強ばかりじゃなくて動いたりして、そこから学びにつながって良かった。
- ・ 大学の授業では絶対に学べないことを教えていただき、すごく勉強になりました。
- ・ 教職員として参加させていただいて、新たな発見をすることが多く、とても有意義な4日間でした。特に福井市は指導員の存在自体を知らないという状況です。自然体験活動は主に教員が行い、よく行われるキャンプファイヤーやオリエンテーリングなどを、「こなす」というだけにとどまっています。なので、まず指導員の存在（学校と積極的に関わってくれるということ）や、それぞれの体験が持つ意義や力を知れたということは、本当にありがたいことでした。

## 4. 成果と課題

### (1) 成果

- ・講師からの一方的な伝達でなく、すべての講師が参加者に体験させ、その中で考えていくスタイルをとられたため、主体的な学びを得られる研修会とすることができた。
- ・講座ごとを独立させず、4日間を通したプログラムデザインしたため、深い学びにつなげることができた。

### (2) 課題

- ・3泊4日を通した効果は見られたが、平日を一日挟んだため、応募が少なくなってしまった。
- ・また、大学生にとって参加しにくい時期でもあったことで、今後は開催時期や分割に実施するなどを再検討する必要がある。

## 5. 活動の様子

講義：「学校教育における体験活動の意義」



演習：「自然体験活動の技術（シーカヤック）」



演習：「自然体験活動の技術（シーカヤック）」



演習：「体験活動の指導法」



演習：「プログラムの企画立案」



講義：「プログラムの企画立案」

